

第26回廃炉・汚染水対策現地調整会議の概要

1. 日程

日時:平成27年10月30日(金) 10:30～13:00

場所:ホテルハマツ 3階「橋の間」

2. メンバー

政府: (議長):高木原子力災害現地対策本部長(経済産業副大臣)

後藤原子力災害現地対策副本部長

復興庁:白井次長(福島復興局)

文部科学省:原子力課 南専門職

農林水産省:岡田生産推進室長

農林水産省水産庁:竹葉研究指導課長

国土交通省:河川環境課 堂菌調整官

環境省:水環境課 加藤課長補佐

廃炉・汚染水対策チーム:田中事務局長補佐、尾澤事務局長補佐、

江口対策官、豊口企画官、近藤企画官

廃炉・汚染水対策現地事務所:生越所長、木野参事官、谷田調整官、

岡山対策官、小形対策官

原子力損害賠償・廃炉等支援機構:松永現地事務所長

東京電力:石崎福島復興本社代表、増田プレジデント、有馬バイスプレジデント、

白川福島第一原子力発電所ユニット所長

福島県(オブザーバー):玉根政策監

規制当局(原子力規制庁):山田審議官、持丸地域統括管理官

3. 結果概要

(1) 議長冒頭挨拶

○本日も、御多忙の中、お集まりいただき感謝。

○9月の内閣構造により再任となったため、今後ともよろしくお願ひしたい。

○関係者の日々の努力により、この1年間で1Fにおける廃炉・汚染水対策は着実に進んできている。

○汚染水対策については、9月14日にサブドレンの排水を開始して以降、順調に稼働を続けているとともに、10月26日には海側遮水壁が完成。また、陸側遮水壁についても、

先行して凍結を開始する山側の工事が完了していることは報告済みであるが、これに加え、海側についても10月15日に全ての削孔が完了。このように汚染水対策については、目に見える形で大きく前進している。本日はこれらの対策の進捗状況等について報告を受けたい。

○他方、燃料デブリの取り出しなど廃炉に向けた作業は、長期的な取り組みであるとともに、非常に高線量ということもあり、なかなか目に見える形になりにくいものであるが、10月20日に3号機原子炉格納容器の内部調査を実施するなど、その状況は徐々に明らかになってきている。本日は、これらの調査状況についても報告を受けたい。

○これらの作業を着実に進めていくためには、困難な環境の中で活躍頂いている作業員の方々の環境改善が非常に重要。そのため、本日は、労働環境改善についても報告を受けたい。

○それから、本日の議題ではないが、先週月曜日（10月19日）に、イノベーション・コースト構想の最初の拠点となる楢葉モックアップ施設（遠隔技術開発センター）の開所式が行われ、安倍総理とともに出席した。総理には、2号機に投入するサソリ型ロボットなどを見ていただいた。このモックアップ施設が今後の廃炉に大きな影響を与えることを期待する。

○本日も、活発な御意見、徹底した議論をお願いしたい。

(2) 会議概要（主な指摘事項）

議題1

<資料1-1>

- ▶ 10月26日に海側遮水壁が閉合したことなど、汚染水対策の進捗、効果（環境への影響）について県民にも分かりやすく説明すること。
- ▶ 国や県においても、しっかりと説明していく。

議題3

<資料1-3>

- ▶ 廃棄物の仮置き場について、対策が進むにつれ廃棄物は増えていくため、仮置き場における保管・管理は重要。管理責任者を明らかにした上で、しっかりと管理すること。
- ▶ 廃棄物部門と施設管理部門の連携をしっかりと行うこと。
- ▶ 管理にあたっては、実施計画にて申請しているとおり管理すること。
- ▶ 今後の廃棄物が重要との観点から、規制庁において、新たに検討会を立ち上げることにした。

議題 9、10

<資料 2 A><資料 2 B>

- 農水省と県から南相馬市に対し、本年度の米の放射性濃度は基準値を下回っており、大気中のダストも通常値であったことを報告した。東京電力はデータ公開と飛散防止策を引き続き実施すること。
- 1号機の屋根パネルが外され、開放状態となっている。県民にとって飛散は不安なことであり、徹底した対策を講じて欲しい。
- 内堰止水対策は堰内に雨があっても可能だと考えられるため、確認を出来るだけ早く実施して欲しい。また、雨水処理設備の増設は処理能力の拡大につながる有効な対策であるため、確実に言い報告すること。
- タンク容量が逼迫しないように、タンクの新設、リプレース、新規エリアの開発が重要であるとともに、陸側遮水壁の凍結を早期に進められるよう努めること。

(3) 次回以降の日程

○次回は11月開催。詳細の日程は決定次第、事務方より連絡。

(以上)